

「沖縄県を対象とした自然の素材を使った玩具や遊びの調査」

環境情報学部 2 年 加藤初百合

環境情報学部 3 年 滑川寛

1. 概要

工業化が進む以前は、日本各地で、地域で得ることのできる素材と、その地域の知恵や工夫を活かし、様々な道具が作られていた。大量生産された製品とは異なり、自分たちでつくることから、使う人の体格や細かな用途に合わせて形を変えることが可能である。画一的な工業製品が増えつつある中で、地域の素材を用いて手作りされた道具について調査することは、資源の循環や地域性を守ることに寄与できるのではないかと考えた。そこで、本土とは大きく異なる文化や植生をもち、独自の地域性が根強く残っている沖縄県を対象として、手作り道具についての資料調査や聞き取り調査、さらに現地での制作を行うことにした。

2. 事前調査

①資料調査

国立国会図書館にて、沖縄の地域の素材を用いて手作りされた道具や玩具についての資料を集めた。資料から、沖縄県では、アダンやソテツなどの大きな葉をもつ植物を使い、皿やかごなど生活の道具をつくる「草編み」が古くから行われていることが分かった。しかし、プラスチック製品の普及が進んだことで、草編みは生活の道具から子どもたちの手遊びや玩具へと移り変わっていった。そこで、本調査では、様々な自然の素材を使った玩具や遊びのなかでも、草編みに焦点を当てた。

②アンケート調査

沖縄県内の小学校 1 校と中高一貫校 1 校を対象に、現地調査の参考とするためオンラインでアンケート調査を実施した。アンケートでは、生徒たちに草木や貝殻など自然の中にあるものを使ってどんな遊びをしたことがあるかについて質問した。また、家の中や店先などで見かける自然の素材を使って作られた生活の道具や飾りについても、文章や写真を使って回答してもらった。

3. 現地調査

図書館・資料館からの調査

①沖縄県立図書館（那覇市）

沖縄県立図書館が所蔵する草編みに関する郷土資料の参照を行った。資料に掲載されている作り方の手順をもとに後に制作を行った。

②沖縄草玩具館（読谷村）

『手遊び草編み玩具』の著者である新崎宏さんが開設している沖縄草玩具館を訪問した。実際にいくつか草玩具を制作しながら、それぞれの玩具がつけられた背景について教えていただいた。例えば、ススキやサトウキビの茎から作られる「キジムナーの歯ブラシ（図 1）」は、沖縄の精霊であるキジムナーが食後に歯を磨くものと言いつた。それぞれの草編み玩具には、その使われ方や意味が与えられているものが多く、沖縄県の文化とも深く関わっていることが分かった。



図 1：キジムナーの歯ブラシ

③やんばる森のおもちゃ美術館（国頭村）

国頭村の木を使った玩具や、草編み玩具が展示されており、実際に遊ぶことのできる施設である。ここでは、定期的に草編みのワークショップが開催されているとお聞きした。県内各所で草編みの文化を普及しようと取り組まれている方が数人いて、講師として子どもたちに教えているとのことであった。しかし、それらは草編みという沖縄の文化を守るために行われている活動であり、実際に子どもたちが自然の中で遊んだり、生活の道具としたりするのは稀であることが分かった。

住民への聞き取り調査

①久米島に住む夫婦

本島と比較し、古くからの暮らしや文化が残っていると考えられる久米島にて、島民のお宅に滞在しながら、調査を行った。元々草編みは、男の子の遊びとして楽しまれ、子ども同士で編み方を教え合っていたという。編みものという女の子が祖父母世代から教わるものだと予想していたため、この話は大変驚きであった。

また、お盆の時期であったため、沖縄の伝統芸能であるエイサーが各地域で行われているのを見ることができた。

エイサーにおいても、チョンダラーと呼ばれる酔っ払い役が、泡盛を包むためのクバの葉をつかった飾りを身に付けていたのを発見した。

②やんばるに住む夫婦

沖縄本島北部のやんばるの民宿において、草編みでつくった生活用品を実際に使いながら生活をしている方にお会いすることができた。庭や道沿いに自生する草木を使い、草履（図2）や籠を作り、実際に生活の中で使っている。草木を煮詰めるための釜や、伸ばすための道具（図3）があり、丁寧な加工をすることで、草編みは遊びのためだけでなく、生活道具として長く使うことができることが分かった。また、壊れてしまったものも、直しながら使うことができることも、手作りの特徴と言える。



図2：アダンで作られた草履 図3：製麺機のように草を伸ばすための道具

4. 制作と考察

収集した資料と聞き取り調査を元に、実際に現地の植物を使って草編みを用いた道具や玩具の制作を行った。制作を通して、その道具や玩具をつくる上で植物に求められる条件があることに気が付いた。

沖縄の植物	アダン	ソテツ	フクギ	ススキ・ムギ
				
制作する上で求められる必要な形と特徴	細長い平行脈。適度な固さと柔軟さがある。	左右対象に葉が伸びている。ある程度曲げても折れない。	葉が大きい。とげがなくつるつるしている。(肌にふれても安全)	棒状で縦にさける。折り曲げても2つに分離しない。
玩具の種類	風車、ボール、メガネ、指ハブ 	虫かご、魚 	草履、お面  	歯ブラシ、器 

5. 今後の展望

草編みの最大の遊びの特徴は、身の回りにある素材を使い、その場ですぐに玩具や道具を作ることができることである。そのため、制作する上で求められる必要な形と特徴を満たせば、沖縄の草以外の材料でも作ることができると考えられる。例えば、アダンの代わりとして、ヨシなどの並行脈の葉を持つ植物や、PPテープなどの素材を用いることができる。そこで、今後は身近な素材を用いた草編みの実践を行いたい。



図4：PPテープで作ったパイナップル

また、草編みは、ある部品を作ることができれば、それらを組み合わせ、様々な形を作ることができるものもある。例えば、時計を作る部品を4つ組み合わせることで、眼鏡（図5）を作ることができる。組み合わせ方を考えることで、資料などには載っていない新たな遊びを作ることが可能であり、その考案を行いたい。



図5：アダんで作った時計（左）と眼鏡（右）

6. 参考文献

- 新崎宏（2014）．『手遊び 草編み玩具 第3巻』．琉球新報社．
 沖縄あそび研究会（1976）．『おきなわ子供の遊び 植物編』．ひるぎ社．
 外原享（1989）．『星っころ 手づくり玩具と子供たち』．沖縄玩具伝承友の会．
 西浦宏己（2004）．『琉球の玩具とむかし遊び』．新泉社．

謝辞

研究調査に必要な費用のご支援をいただきました慶應 SFC 学会様に深く感謝申し上げます。